



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社ビーブレイクシステムズ（B） —統合型基幹業務システム「MA-EYES」の製品開発—

システム開発会社である株式会社ビーブレイクシステムズ（以下ビーブレイクとする）は、設立時に開発した J-Fusion（ジェイフュージョン）という製品を使ったシステムの構築を行うビジネスをメインに行いたいと考えていたが、設立直後の営業面の危機から脱却するために常駐系ビジネスを始めようとしていた。それが結果的に元々やりたかった企業の業務システムを構築するステップになることを当初は気がつかなかった。

沿革

2002年（平成14年）7月、会計コンサルタントであった白岩が中心となり株式会社ビーブレイクシステムズは設立された。白岩が会計コンサルタントであった時期に非効率で無駄の多いシステム開発の現場を目の当たりにし、もっと効率よくシステム開発を行うことはできないかとの問題意識を端緒として、設立された会社であった。後ろ盾もない状態でのスタートではあったが、これまでの経験から、自分たちで開発した製品を活用したシステム構築は多くの企業のニーズをとらえていると確信しての企業の立ち上げであった。当時株式会社設立のために必要であった資本金1,000万円は、名実ともに自分たちの会社を経営したいという想いから外部からの出資は行わず、全額自分たちで貯っていた。

このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科（ビジネス・スクール）の教材とするために、慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授 高橋大志が作成した。ケース作成にあたり、株式会社ビーブレイクシステムズ代表取締役 白岩次郎氏、同取締役 上川伸彦氏、同取締役 高橋明氏から貴重なコメントを頂いた。また、同社 木塚愛美氏からも、執筆にあたり多大な協力を頂いた。ここに記して感謝したい。

なお、本ケースは、クラス討議のために作成したものであり、経営の巧拙を例示するためのものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 高橋大志（2011年2月作成）

5

10

15

20

25

30